Benedi Consulting
M&A and Business Advisory

Topics / Insight

2013 年 11 月の注目ディール：飯田グループホールディングスの設立

2013 年 12 月 11 日

案件の概要

2013 年 11 月 1 日、低価格の戸建て分譲住宅を手掛けるパワービルダー6 社が共同持株会社を設立して経営統合しました。株式移転により設立された持株会社は飯田グループホールディングス。経営統合に参加した 6 社とは、一建設、飯田産業、東栄住宅、タクトホーム、アーネストワン、アイディホームです。いずれも上場会社でしたが、10 月 29 日付で上場廃止となり、飯田グループホールディングスが 11 月 1 日に上場しました。

株式移転比率は、一建設：飯田産業：東栄住宅：タクトホーム：アーネストワン：アイディホーム＝3.14 ： 1.00 ： 1.16 ： 108 ： 1.16 ： 2.62 です。全ての当事会社の移転比率が 1 以上となっていますが、これは比率決定の時点で最も株価の低い飯田産業を 1.00 としたことにより、新たに上場する持株会社の議決権を得られない株主を出さないようという配慮が働いた結果です。

本件統合の背景

100％子会社同士などグループ内の経営統合では当時企業数が 2 社を超える案件を多く見かけます。最近では角川書店が子会社 9 社を吸収合併した事例や新日鉄住金の連結子会社 8 社が合併を決めた事例が当時会社数の多い再編として挙げられます。ところが、上場企業同士で 6 社の経営統合となると、他に例が見当たりません。

本件における 6 社は元々、飯田建設工業（現・一建設）から独立した OB たちが興した会社であり、従前より業界では「飯田グループ」と呼ばれていました。上場会社 6 社という他には見られない規模の経営統合が実現できたのは、こうした背景があります。加えて、飯田建設工業の創業者である飯田一男・一建設会長が強力なリーダーシップを発揮したことも見逃せません。

一方で、統合比率が一部のオーナー株主の利益に基づいて決められることなく、一般株主にとっての公正性・妥当性を確保した比率であることを示すために、各社は独立した財務アドバイザーを起用し、各々フェアネスオピニオンを取得しています。（弊社もアーネストワンのアドバイザーとして、フェアネスオピニオンを提出致しました。）

Copyright © 2013 Benedi Consulting Co., Ltd. All rights reserved.

Topics / Insight

住宅市場へのインパクト

日本国内の新規住宅着工件数はリーマンショック後の大きな落ち込みから徐々に回復してきていますが、年間 100 万戸には依然届いていません。その上、人口減少や高齢化によって、中長期的には市場縮小が見込まれています。長引くデフレの中で低価格を武器にしたパワービルダーは売上を伸ばしてきましたが、利益も同様の右肩上がりとは行きませんでした。今回の経営統合は、そうした厳しい市場環境の下で、スケールメリットを活かした共同購買・用地買収等を通じて強固な経営基盤を築くことが狙いです。

各社の直近期の売上高を単純合計すると 9000 億円となり、新会社は大和ハウス工業、積水ハウスに次ぐ第 3 位の住宅メーカーグループとなります。また、戸建分譲の販売個数では約 3 万戸となり、積水ハウスの 1 万 6 千戸をはるかに上回ります。

低価格路線の大規模パワービルダーの誕生は、海外展開の強化やスマートハウスなどの高付加価値化で差別化を図る大手住宅メーカーの強力な対抗軸となります。このことによって、独自の特徴を打ち出せない中堅住宅メーカーはより一層苦しい状況に追い込まれるでしょう。また、消費税増税前の需要先取りの影響も来年 4 月以降に現れると思います。それらが更なる再編の呼び起こすと思われ、目が離せません。

飯田グループホールディングスの代表取締役会長であられた飯田一男氏が 11 月 29 日に逝去されました。飯田氏はグループにとってカリスマであり、6 社をまとめる正に絶対的なリーダーであったと思われますが、本件統合は結果的に最後の大仕事となってしまいました。

同氏のこれまでの多大な功績に敬意を払うとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

＜問い合わせ先＞
ベネディ・コンサルティング株式会社
Mail： info@benediconsulting.jp
Web site： http://benediconsulting.jp

Copyright © 2013 Benedi Consulting Co., Ltd. All rights reserved.